

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0872600051		
法人名	有限会社 福祉未来計画		
事業所名	グループホーム榎子木(かやのき)		
所在地	那珂市戸崎503番地3		
自己評価作成日	2021年5月10日	評価結果市町村受理日	2021年8月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvsvCd=0872600051-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2
訪問調査日	2021年6月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①家庭的な触れ合いを大切に、御家族とは電話や写真の掲示、年2回の家族会等を通して密接なつながりを持っています。また地域との交流を大切にし、年6回開催される推進会議では戸崎地区自治会長、民生委員の方々などを交え地域との連携を密にとっています。また地域消防団・自衛消防団の見守り活動を実施して頂いております。②医療連携の強化に努め、看護師の常置化、喀痰吸引事業者登録、指導者の育成、研修の充実などを通し、家族のニーズに沿った看取り体制を整えています。③御利用者一人一人の心に寄り添った介護に努め、質の高い介護と安心安全な生活環境、自然を大切にした環境作りに努めています。④ユニット間での交流を兼ねたイベントを通して、御利用者楽しんで頂けるような、より細やかな介護の充実を図って行きたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	榎子木のこころ「友愛」の理念は象徴的ではあるが、イメージされるそれぞれの状況を各自で膨らませることで、関係する誰もが共に歩みながら明るく穏やかな家庭的な雰囲気醸し出している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方々とは、日常の挨拶や、月2回の自治消防団の巡回を行って頂いている。行事再開の折には、以前同様地域のボランティア受け入れ、自治会の行事への参加、お手伝いも積極的に行う予定である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	那珂市社協主催夏のボランティア体験の協力、歌や踊りなど地域ボランティアを積極的に受け入れ地域との交流の機会を持っていたが、コロナ禍の現在は中止している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には自治会長、女性部会長、民生委員、地域包括支援センター、御家族代表、那珂市役所の他、交流のあるグループホームの代表も出席して施設の報告や意見交換をしていたが、コロナ禍の現在は文書にて報告を定期的に行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議資料にての報告や、利用者数、待ち数、病気や怪我の報告などを適宜実施することによって、コンプライアンスの徹底を図っている。又、新型コロナワクチン接種では市の指導と相談で進めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の適正化のための指針や、身体拘束禁止委員会の定期開催、お茶の水ケアサービス学院の配信研修を行い、職員全員が、身体拘束をしないケアの実施に務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定例のユニット連絡会議、職員会議やケースカンファレンス等を通して虐待等が内容に相互に確認をしている。又配信研修を行いきめ細やかな対応が出来るように留意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設長が社会福祉士として権利擁護に関わる制度やその運用について研鑽を積み重ねている。また外部講習会を通して成年後見制度等の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長、管理者、ケアマネージャーの複数人が契約時に対応し、施設の状況や経費等について詳しく説明している。又御家族からの質問についても一つ一つ丁寧に答えられるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回家族会を開催し、行事も参加して頂き家族同士の交流の場をもうけ、御意見を頂いていたが、現在は行事を中止している為、サービス計画書作成時の連絡の際や、面会時に御意見を頂き運営に反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット連絡会議や職員会議を行い、職員の意見や提案を聞く機会を設け運営に反映させている。又ケースカンファレンス、ヒヤリハット・事故報告書の検討等も併せて実施することで、御利用者の把握についての共通理解を図っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月次月の勤務割を作るための希望調査を実施し、希望が叶うようなシフトを編成している。又毎月配信研修を実施し新しい知識や方法などについて理解を深めるように努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	zoomを使っての外部研修や、お茶の水ケアサービス学院の配信研修を毎月実施し、知識の啓発や実践課題等の発見にいたるよう務めている。又朝の引継ぎ等を利用し個々の事例に応じた医療的ケアについての相互理解に務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネネットワークを活用し、勉強会に積極的に参加。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に家族やケアマネージャー等と連絡をし実調に伺い、本人の不安や要望等を確認。安心できる関係作りを務めている。また家族から必要な情報を収集し、入所後の環境変化に対応できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族から要望や不安な事を伺い、相互によく話し合い、理解を深める事で信頼関係を築ける様務めている。また些細な事等でも電話等で確認を行いながら進めるよう留意している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じた柔軟な支援を行い、場合によってはほかのサービスを進めることもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のこれまでの生活を尊重した働き掛けをしながら、職員が利用者から教えて頂いたりしながら支え合う関係を構築している。また他の利用者との関係性にも配慮し、トラブルの未然防止や調整に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員は気軽に話せる関係作りに努めている。その関わりの中で共に利用者を支え合う関係は出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は面会室を利用し、親族の方のみ気軽に面会に来て頂いている。日常会話の中でも慣れ親しんだ場所や人を意識的に話題に出すよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を大切にしながら利用者同士が支え合うように支援している。また性格や病態の相違により関係性が悪化する事を未然に防止できるよう、食堂での座席の位置や会話等にも細心の注意を払っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者の家族にも気軽に訪れることができる雰囲気づくりに努めている。また退所後の相談についても、物品等の処理出来る限り希望に沿った形で対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全職員が利用者に関する情報を共有し利用者の意思を尊重できるよう配慮している。利用者が自身の希望を伝えられない場合は家族を含めたサービスの提供に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や知人、前任ケアマネの話聞く等、これまでの暮らしを出来るだけ把握できるよう努めている。またそれをケースカンファレンス等で情報の共有化を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の詳細な介護記録、健康状態の記録を行い、ADLについてアセスメントを行う事で、職員が現状を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の状態に変化が見られる時は、こまめにサービス担当者会議を行い、現状の課題を共有する事で、現状に即した介護計画が作成できる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌や個人記録等を活用して申し送り等を行い、職員間での情報を共有しケアや介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	単独事業につき、現在サービスの多様化には取り組んでいないが、看取りサービスなど家族のニーズに沿った柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市立総合運動公園、私立民族資料館、県立植物園等身近にある地域資源を活用し、心身の力を発揮しながら安全で豊かな生活を楽しむことが出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族と相談し納得の得られた「かかりつけ医」の受診を支援している。また連携している内科医の往診や訪問歯科、訪問医療の受診も受けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師が看護記録を作成し健康の維持管理に努めている。また介護職も兼務し御利用者の医療や生活状況も含め御利用者の総合的な把握に努めている。体調急変時は中心となって適切に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケアマネージャーを中心に、病院関係者と情報交換や連絡相談に努め、入院・早期退院に備えて連携している。また施設看護師が病状の把握と今後の措置等について、職員間の共通理解に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合や終末期について家族と話し合っている。御利用者が日々をより良く生活出来るよう、かかりつけ医や関係者と相談・連携して対応している。また御利用者家族とは書面での確認も必ず行うような仕組みを整備している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応が出来るように職員会議等で研修している。応急手当や初期対応の訓練についてはケースに応じて看護師を中心にしながら実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練を年2回実施し、御利用者の避難方法を職員は身につけている。災害時の市指定避難場所にも隣接している。また井戸水や発電機も利用出来る環境になっている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の性格、生育環境や認知症の状態が一人一人の行動や言動につながっていることを理解しながら接している。プライバシーの尊重や言葉かけには普段から十分な配慮や注意をして接している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを図り、本人の思いやりや希望を表せる世に日常生活を通して働きかけを随時行っている。特に入浴時には職員と1対1の話を通して自己表現が出来ている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	トイレ誘導や洗面、居室での休憩や就寝等、一人一人の生活のペースに合わせた支援をしている。お茶の時間なども眠い場合など、無理に誘うことはしないで様子を見ながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を伺いながら、その人らしい身だしなみが出来よう支援している。また訪問理美容が定期的により、ほぼ全員が利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回季節に合わせたお楽しみメニューの提供し、食事を楽しんで頂いている。また一人一人の嗜好や好み、持病等により違ったものを提供するなどの対応をしている。お米は精米をしながら提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食べた量や水分量を把握し、身体の状態や習慣に応じて栄養・水分量が確保出来るように支援している。好みの飲み物やスポーツドリンクをお茶の時間に提供し、水分補給に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者個々に合わせ、うがいや歯磨きの声かけを行い、食事毎に実施している。義歯の方には夜間入れ歯洗浄液を使用し義歯の清潔に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、定期的なトイレの声掛けや誘導を行い、リハビリパンツ等に頼らない自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や排便の記録を基に、かかりつけ医と相談しながら、一人一人に合った方法で取り組んでいる。また便秘が酷い時は施設の看護師が状況に応じて薬の調節や摘便等により対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には午前中に一日おきではあるが、利用者の希望があればその都度対応して入浴を楽しんで頂けるようにしている。入浴を拒否される方にも柔軟に対応しながら入浴を促している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を把握し、安心して休息や睡眠がとれるよう支援している。また夜間寝付けない場合や徘徊が見られる方にも無理に寝かせようとしないで、状況の応じて誘導するよう留意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の健康状態や症状の変化を確認しながら、かかりつけ医や看護師と相談し、服薬の支援に努めている。また職員が服薬状況を共有化し、看護師を中心に服薬状況の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物量み・畑仕事・除草作業や散歩等一人一人の生活歴に合わせた役割や気分転換の支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ワゴン車で花見・県植物園・菊祭り見学など外出行事も定期的に行っており、利用者の希望に応じて近隣をドライブを実施している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて少額の金銭所持や買物等での使用を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状のやり取りや本人の希望等、その都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	豊かな自然の中にある施設であるため常に季節を感じることができる。また、共有空間には花を飾ったり、季節に応じた小物や人形等を飾って住みよい空間作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では気の合った利用者同士で、楽しく会話が弾むような工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に協力してもらい、馴染みの品々や使い慣れた寝具・タンス・畳等を持参してもらい、使っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の身体機能に合わせ、出来るだけ自立した生活が送れるよう安全な環境作りを工夫している		